



LA NOUVELLE

N°1 AUTOMNE

東京外語仏友会
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10
本郷サテライト 東京外語会気付

ごあいさつ

新会長 神奈川孝子(昭37)

この4月、私たちフランス語を専攻したものは誰でも大好きな「シャンソン」の調べに乗せて東京外語仏友会(通称:仏友会)の2008年度が始まりました。この総会で、渡辺昌俊先輩から仏友会の会長を引き継ぎました。微力ですが、2年後さらに若い世代に引き継ぐまで、お役に立ちたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



渡辺前会長は、2004年に田島宏先生が逝去されるその前の会長代行の年月を含めると、約6年間にわたり、その教養と国際感覚とリーダーシップで仏友会を引っ張って下さり、現在の充実した会の基礎を築いて下さいました。また2006年には、故田島宏先生の「追悼文集」(LE TEMPS PASSE...) 発刊にご尽力下さいました。厚くお礼申し上げますとともにこれからも「よき先輩の指針」を賜りますよう、お願い申し上げます。

また渡辺前会長とともに、副会長として都築秀之さん(昭和36)と菅原恵美子さん(昭和42)にも、大変ご活躍いただきました。もう一人の副会長、渡邊啓貴先生は、現在外語大を退職し、パリの日本大使館にて、文化担当大使としての要職に就かれています。今年は日仏交流150周年の節目にあたりますが、ご帰国後にまた貴重なお話を伺えるのではないかと期待しております。渡辺前会長を支えて下さった、3人の方々に心から感謝の言葉を申し上げます。

今年度の総会において、私のほかに14名の方が幹事に決まりました。この中から、副会長を、川口裕司さん(母校教授、昭56)、相馬寿美乃さん(昭39)、藤倉洋一さん(昭45)にお願いし、川口先生には、母校・現役学生とのパイプ役を、相馬さんには、会の運営全体を、藤倉さんには、会計を含む運営全体を受け持つ事になりました。次ページの「新幹事です。よろしく!」をご覧ください。

幹事会において、皆さんとの話し合いのもとに、ここに念

願だった「仏友会の会報」(LA NOUVELLE)が、第一号として出来上がり、広く会員の皆様に読んでいただけることになりました。誠に嬉しく思っています。第一号は、とりあえずこのようなシンプルな形で出しましたが、さらに充実し大きくなっていくものと確信しております。

年間行事としては、4月の総会(講演会を含む)と11月のサロン(講演とBeaujolais Nouveauを楽しむ会)を軸にして、それぞれの「お知らせ」と「報告」を、このLA NOUVELLEに載せる予定です。発行は春・秋年2回を目指しております。最後になりましたが、仏友会の会員の皆様には、会の発展と、生まればかりのLA NOUVELLEに、長い目で温かきご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

(2008.7.14.)

バトンタッチ

前会長 渡辺昌俊(昭34)

学校を出てから40年余りのサラリーマン時代は思えば堀の中の生活だった。同じ企業カルチャーに育まれた仲間を中心とした交流は、当時は当たり前になっていたが、実はごく狭い範囲の驚くほど閉鎖的な世界だった。だから65歳で自由の身となり、ボランティア活動などに足を踏み入れ見て、世の中が急速に拓がって見えたものだ。

仏友会との付き合いは半ば偶然の成り行きであったが、年齢も経験も異なる多種多様な同窓生との出会いは新鮮な発見の連続であった。フランス語やフランスをキーワードにした集まりには同窓意識が基礎にあるから会った途端に tutoyer の世界だ。我々の仲間ほど数は少ないが、多様性に富んだ経歴の持ち主が集まっている団体は稀有の存在ではないか。

仏友会はフランス語科の卒業生がすべて会員である。現在、そのうち1割ぐらいが会の運営を支えている。1年に3回ほどのイベントには常連のほか、テーマによって異なる顔ぶれが参加することに気づいた。それ故、仏友会を盛んにするには、多くの仲間に興味を持たせる企画が良い。損得を超えた付き

合いだから、会員はコストも苦勞も公平に負担して全員で盛り上げる。役員組織には権威は必要なく、機能的であればよい。と思っている。

このほど新会長として神奈川さんにバトンタッチ出来たのは、私にとってはごく自然な流れであるが、実質6年間も会の運営に携わり、最後に最高の形で仏友会に貢献できたと自負している。終わりに、イベントの企画からパーティのあとかたづけまで骨身を惜しまず協力してくれた、副会長はじめ多くの仲間から御礼を申し上げます。

2008年8月

恒例:第13回サロン仏友会のお知らせ

～講演とボジョレヌヴォオを楽しむ会～

- ◇日時:2008年11月22日(土)
- ・講演:午後2時～3時45分
演題「フランスの今、日本の今」
(Les impressions d'un Français du Japon)
—講演は日本語で行います。
- 講師 Roussel François
(東京外国語大学客員准教授日本教育史、フランス語教育法)
- ・ワインパーティ:午後3時45分～5時
- ◇会場:本郷サテライト
- ◇会費:2000円

ルッセル先生は、サロン仏友会にお迎えする初めてのフランス人講師です。今年のボジョレの香りと先生の四方山話を楽しみにご参加ください。



- ◇申込みは11月7日(金)迄
(必ずお申込みの上お越しください)
- ◇連絡先: TEL/FAX03-3465-6835 (相馬寿美乃 昭39)
E-mail: ANB73700@nifty.com (富山絢子 昭39)



昭和40年卒までの会員

総会はシャンソンとともに

2008年4月12日、恒例となっている東京・大手町サンケイプラザで仏友会総会が開かれた。

まず2年ごとの役員改選があり、2期4年会長を務められた渡辺昌俊会長から辞意が表明され、後任に神奈川孝子さん(昭37)が、全会一致で新会長として選出された。また菅原恵美子副会長からの会計報告(次年度繰越金75万3507円)も承認された。総会後の新幹事会では、相馬寿美乃(昭39)、藤倉洋一(昭45)、川口祐司(昭56)が副会長となり、神奈川体制を支援する新布陣が決まった。

総会後のメイン・イベントは講演会。今年の主役はシャンソン評論家の蒲田耕二氏(昭39、集合写真前列2列目中央)だった。蒲田氏には2004年5月、東大本郷サテライトでのサロン仏友会で「現在のフランス・ポピュラー音楽事情」の講演をお願いし、すこぶる好評だった。

彼は1988年~91年NHK・FM『世界のポップス』でシャンソン編を担当、その後の2002-04年はNHK第1で『世界の音楽』コーナーでもDJを務め、当会幹事のなかには私も含めて毎週楽しみに聴いていた人も多かった。このサロン講演会の後、当時の渡辺昌俊会長が「機会があったら、もう一度近代フランス・シャンソンの歌と話をじっくりと聞いて

みたい」と心に抱かれた夢が今回実を結んだのである。

第一のきっかけは蒲田氏が2007年9月に479ページ、25曲収録のCD1枚付きの著書『聴かせてよ愛の歌を—日本が愛したシャンソン100』(清流出版)を出版されたこと。蒲田氏の執筆の動機は「シャンソンには実は、有名だが音楽的に貧弱、という例が多い。・・・だから初心者を見誤らないように、つまらない歌はつまらないとはっきり書いたほうがいいのである」と辛口の評論・伝記・解説であることを明言。ジャーナリスト出身の私も、本音で語る蒲田流ラジオのディスク・ジョッキーの再現を期待して、この企画に賛同した。

第二の幸運は、渡辺前会長が自宅で愛用されている小型高音質オーディオのメーカーである「ボーズ」社の佐倉住芳社長がスペイン語科出身(昭34)と判明。講師がこだわっている雑音のないきわめてクリアな音色の再生装置を技術者とともに無料で貸していただけることになり、会場の音響装置の貧弱さを最後まで心配されていた蒲田氏の快諾が得られたのである。

こうして100人を超える出席者が参加して「近代シャンソンの100年」講演会の幕が開いた。蒲田氏の要望で19世紀後半~第2次大戦までの第1部と休憩をはさんで戦後左岸派の台頭からジャック・ブレルの死による近代シャンソンの終焉までの第2部構成となった。「シャンソンで留意すべきは、ジャンルの区別なんかではなく、歌手それぞれの個性である。そして現実派シャンソンが、フランス庶民の生活感情に基づいているために、一番シャンソンらしいシャンソンである」と蒲田氏の判断基準は明確である。永い下積み生活の末、アナーキーなまでに反権力、弱者の味方であったブラッサンス、ブレル、レオ・フェレを三大男性歌手と高く評価したのも、そうした基準から3人が終生はみ出なかったせいだろう。モンタンに対

しては「そうした禁欲的な努力を放棄して」「声と技術だけで押し切った、いうなれば歌う機械」と手厳しい。

23の曲目表に基づいて流されたシャンソンの始まりは、19世紀前半に社会の底辺層の人々の生き様やナポレオンを風刺する歌を作って反骨精神を発揮したシャンソニエ(シンガー・ライター)、ペランジェの「灰色の小男」。続いてベルエポック時代の代表的な歌手、リュウアの現実派シャンソンとイヴェット・ギルベールの声による演劇的表現。こうして始まった講演会第1部の主役はラジオ時代になって一世を風靡したダミヤと「愛の言葉を」のリュシエンヌ・ボワイエ。「これでシャンソンがはじめて音楽的になりました」。第2部で蒲田氏は1部でも取り上げたエディット・ピアフの「群衆」を流し「彼女が死んだとき(1963)伝統的大衆音楽としてのシャンソンの大きな部分が死にました」。そして最後にジャック・ブレルの「ジョジョ」を皆で聴き終わると「この歌はシャンソン全体に対する挽歌です」と蒲田氏は明快に締めくくった。

彼のシャンソン美学になじめない人もいたようだが、歯に衣着せぬフランス的な批評精神には喝采を送りたい。

松本伸夫(昭38)



昭和41年卒以降の会員

最近の活動

仏友会では総会とサロン会の折に、さまざまなF科卒業生のお力を借りて講演会と映画鑑賞や音楽鑑賞、ワインパーティを催しています。実績は以下のとおりです。(敬称略。肩書きは当時)

2000：総会 寺田朗子(昭50) 国境なき医師団日本会長
講演「国境なき医師団」

2001：総会 藤原作弥(昭37) エッセイスト、日銀副総裁
講演「外語生、落第の記」

サロン：秋 伊藤力司(昭33) 元共同通信
講演「タリバンの目指すもの」

2002：総会 小西克哉(昭53) CNN ニュースキャスター
講演「はざまものの漂流記」

サロン：春 渡邊啓貴(昭53) 東京外国語大学教授
講演「フランス大統領選挙」

：秋 村上直久(昭49) 長岡技術科学大学教授、元時事通信
講演「大詰めを迎えた EU 拡大交渉」

2003：総会 松本伸夫(昭38) 東海大学国際学科教授
講演「最近のタイ・カンボジア関係について―旧仏領インドシナ研究者の視点から」

サロン：春 武田潔(昭55) 早稲田大学教授
短編映画「Paris qui dort」の上映とトーク「ルネ・クレールとヌーベルバーグ」
：秋 渡邊啓貴(昭53) 東京外国語大学教授
講演「フランスとアメリカ」―留学を終えた渡邊先生のイラク戦争をめぐる帰朝報告

2004：総会 井狩倫子(昭58) 日産自動車 CEO オフィス主担
講演「カルロス・ゴーンが変えた会社：日産自動車：一社員の視点から」

サロン：春 蒲田耕二(昭39) 音楽評論家
音楽鑑賞とトーク「現在のフランス音楽事情」

：秋 高坂和彦(昭33) 日本パレスチナプロジェクトセンター代表
記録映画「パレスチナ パレスチナ」の上映と解説

2005：総会 箱山富美子(昭43) 藤女子大教授、元ユニセフ職員
講演「求められる人道復興援助とは？」

サロン：春 早良哲夫(昭32) NHK 情報ネットワークバイリンガルセンター専門委員
講演「言葉・ことば・コトバ」翻訳通訳よもやま話―歴史を変えなかった誤訳

：秋 谷口侑(昭34) フランス語ジャーナリスト国際連合(UPF) 国際委員
上映と講演「私にとってのフランスとアルジェリア
―仏功労賞とアルジェリア記念賞の狭間で思うこと」

2006：総会 渡辺守章 東京大学名誉教授 演出家 元東大フランス語科講師
講演「フェードルの軌跡―記憶の劇場」と朗読

サロン：春 生駒芳子(昭55) マリ・クレール誌編集長
講演「ファッションと社会貢献」

：秋 早良哲夫(昭32) NHK 情報ネットワークバイリンガルセンター専門委員
講演「続・翻訳通訳よもやま話―一月火水木金」

2007：総会 佐藤一郎(昭54) 経営・起業コンサルタント
講演「異色銀行マンが明かす銀行員人生と銀行活用の急所」

サロン：春 坂井英俊(昭40) 作曲家、指揮者
音楽談義「秩序と無秩序・その極限を見た現代音楽」と天才少年
上野通明君のチェロ演奏

：秋 日置久子(昭36) 多摩美術大学講師、ファッションジャーナリスト
講演「ギャルソンヌとモボ・モガー現代ファッションの出発点として」

2008：総会 蒲田耕二(昭39) 音楽評論家
音楽鑑賞とトーク「近代シャンソンの百年 第一部「戦前編」
第二部「戦後編」

◎ 仏友会 会計報告(2007年4月1日～2008年3月31日)

収入		支出	
前年度繰越	766,432	2007年度総会	319,760
通信費(07,08年度及び先払いを含む)	123,000	6月サロン仏友会	155,766
2007年度総会会費	260,000	11月サロン仏友会	126,398
6月サロン仏友会会費	80,000	語劇支援金	30,500
11月サロン仏友会会費	95,000	事務局費(郵送料、文具他)	7,611
サロン時のワイン販売、会社のカンパ	127,938	郵便振替手数料	6,850
利子	954	2007年、2008年総会経費	52,932
合計	1,453,324		699,817
次年度への繰越	753,507		

仏友会の会費について：

仏友会では、会費という名目ではなく、連絡費・諸経費に充てるため、年間1,000円を会員の皆様をお願いしています。2008年度分未納の方には、郵便振替票を同封しますので、よろしく願いいたします。なお複数年の納入も歓迎します。

外語祭語劇ご案内：

毎年11月23日前後の外語祭で、恒例の語劇が行われます。仏友会でも後輩を応援しています。F科の日程など詳しいことは、日が迫ってから大学のホームページなどでお確かめください。

新幹事です。よろしく！

カンボジア養護施設「子どもの幸せセンター」(CCH)のサポーターとして子どもたちの顔、そのまなざし(regard)に見据えられながら、私は自己満足のエゴイズムを振り払ってきました。今後は仏友会会員の尊顔に出来るだけ多く出会うことで、みなさまの真の願い(supplication)を汲み取っていかれたらと思っています。 松本伸夫(昭38)

幹事会の中の支援役です。皆のブレーン・ストーミング。それを聞いていると、やはりフランス科のエスプリが感じられて楽しい場です。これからも各人各様のご参加を希望しています。 相馬壽美乃(昭39)

昭和と平成初期の仏友会を率いてこられた故・後藤篤さんと知り合ったご縁で仏友会を手伝い始め、すでに30年。その間、主として通信と名簿管理を担当してきました。住所、メールアドレスなど変更があれば富山(ANB73700@nifty.com, FAX03-3392-9473)にご一報ください。 富山絢子(昭39)

遠い明治6年、日本の西欧化・国際化の「旗持ち」であるかのように東京外国語学校は設立されました。以来「ときの現代人」として時代の波に煽られながら刻んでこられた諸先輩お一人ごとの歴史は、尊いかげがえのないものと存じます。仏友会というまでもなく唯一のフランス語卒業生OB会。私たちも「現役の現代人」として、多くの先輩方の志をどう継承してゆくのが問われているように思えてなりません。

会の主役はいうまでもなく会員の皆さまご自身。そして私も、非力ながら一幹事として参画させていただきました。 坂井英俊(昭40)

フランス(語)科出身者の懇親・社交の場が仏友会、サロン仏友会です。社会の各分野で活躍している卒業生・OBの話に耳を傾け、明日への知性・活力を養いましょう。講演終了後、ワインを片手のダベリングも楽しいですよ。皆さん気軽に参加して親睦の輪を広げましょう。 金澤脩介(昭43)

卒業後約30年間銀行にその後薫香業界で10年ほど働き、昨年3月に完全リタイア、現在は家庭菜園とテニスで毎日を過ごしています。お世話になった故田島先生が発展にご尽力された仏友会のお役に少しでも立てたらと思っています。 富田和義(昭43)

旧友と飲むワインが美味しくて、そのまま参加で12年。現役時代は不勉強、その後も何かとさぼり気味。それでも同窓は温かい。今後も、肩肘張らない会であってほしいです。 和賀千恵子(昭45)

卒業後約10年間欧州のフランス語圏で勤務しました。おかげで、世界が広がり、豊かな人生となりました。フランス語というキーワードがわが人生に彩りを添えてくれました。恩返しの意味で仏友会を盛り上げたいと思います。 藤倉洋一(昭45)

卒業25周年の時、外語会・仏友会を支えていらっしゃるのがF科の素敵なお先輩方であると知り、誇らしく感じました。以来雑用係りとして、微力ながら仏友会のお手伝いをさせていただいております。 勝亦杏子(昭46)

日本に欠けるものを豊富に持つフランス。凶々しさ、饒舌、独創性へのこだわり。フランス丸かじりのLA NOUVELLEを目指したいと思います。フランスのブログからは一人一人の息遣いまで聞こえます。 西 敏彦(昭46)

大正10年に瀧村立太郎に招聘された山内義雄が母校で教鞭を振っていたある年(大正11年か)、仏友会会費徴収の通知に真っ先に送金してきたのが大杉栄。大正12年大震災下奇禍。 内海和夫(昭54)

皆様、平素より学生たちの語劇へのご援助ありがとうございます。仏友会とフランス語専攻のパイプ役になれたらいいなと思います。企画等ありましたら、いつでも持ちかけてください。どうぞよろしくお願い致します。 川口裕司(昭56)

